

「情熱・熱守」通信

～ “稲むらの火” と “津波てんでんこ” ～

熱海警察署
警備課

災害が起きたら、

まずは自分の命を守るために逃げよう！



『稲むらの火』ってお話について、教えて！！

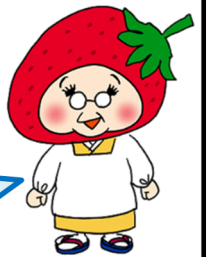
『稲むらの火』とは…

1854年(嘉永7年、安政元年)に発生した

「安政南海地震津波」

の出来事をもとにした物語のことだよ。

お話の概要は、下に書いてあるから、読んでみてね！
(参照:小学読本)



主人公の五兵衛は、地震の揺れを感じたが、村民は地震に全く気がついていなかった。

五兵衛は「津波がやってくるに違いない」「このままにしておいたら、400人の村民が被害にある」と思い、村民に被害を伝えるために、自分の田の全ての稲むらに火を付けた。

火は風であおられて、広く燃え広がったが、村民は火事に気がついたため、山手に駆けだし、津波の被害から逃れることができた。

『津波てんでんこ』は、三陸地方の教えだよ。

三陸地方は、昔から津波が何度も発生していたため、「津波が来たら、それぞれがバラバラに逃げて命を守ろう」というもの。

※ 「てんでん」には、「それぞれ・おのおの・各自」という意味がある。

「こ」は、東北地方によく見られる方言のかたち。

過去の大津波で、一旦は避難をしたが、家族を助けに家に戻り犠牲になってしまった人もいた。こうした教訓から生まれた言葉なんだ！

